顔

「第17回本間一夫文化賞」受賞

岸博実さん 71

撮影・土屋功

1878年創設の日本初の視覚・聴覚障害児学校「京都盲唖院」（現・京都府立盲学校）に残る教材・教具類の研究整理に取り組み、2年前、3000点が重要文化財に指定された。近現代の教育史分野の重文指定は「東京大学史関係資料」などに次ぎ3件目。その功績が評価された。

同校で教壇に立つ傍ら、古い教務日誌を電子化するなど10年以上かけて膨大な資料を系統立てて整理した。歴史に埋もれた視覚障害者の過酷な境遇を伝える意義が、原動力となった。その取り組みを「人間の尊厳とは何か、教育とは何かを問い直す作業」と例える。

視覚障害への知識や関心が元々あったわけではない。教員採用試験に合格し、1974年、同校に配属されるや、生徒から「僕らの気持ちが分かるか」と投げかけられた。障害への世間一般の無理解を訴える声は、後の教員人生のよりどころとなる。対等な立場で子どもたちと向き合えているかを常に自分に問うてきた。

定年退職後は各地に眠る「盲教育史」の資料探しで全国を巡る。「盲教育史には共生社会のあり方を考えるヒントが詰まっています」

（京都総局　磯江祐介）

日本盲教育史研究会事務局長。島根県出身。

＊本間一夫文化賞　日本点字図書館を設立した本間一夫氏を記念し、読売光と愛の事業団などの協力で創設